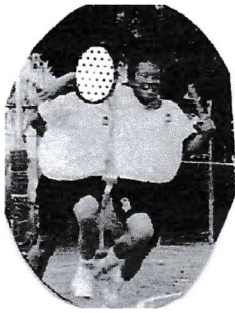
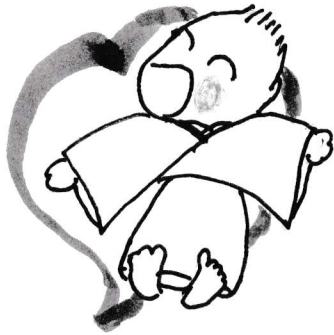


白根よしのり STORY♪



誕生のエピソード よしのりくんは女の子？

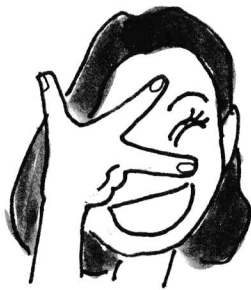
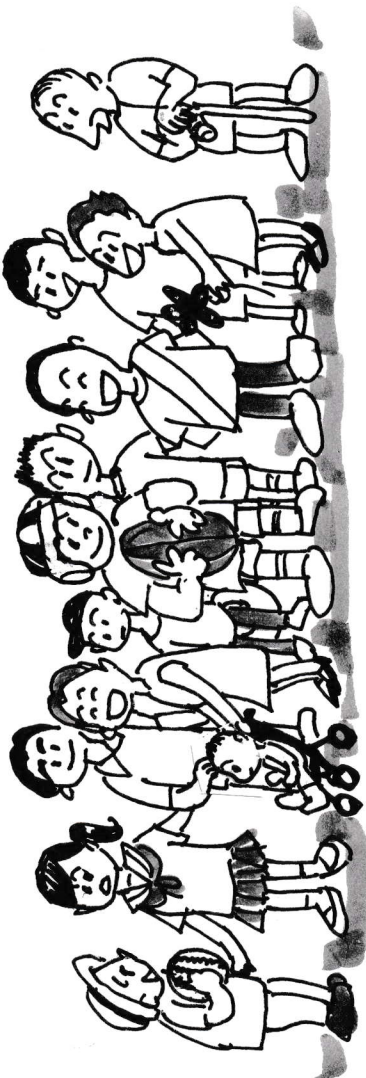
よしのり君は男3兄弟の長男。1986年2月3日に生まれました。産科医が母子手帳の女の子の欄に丸を付けてしまうほどやさしいお顔。桃色のベビー服を用意していたおかあさんも、あわてて黄色の男の子の服を買いに走ったものでした。



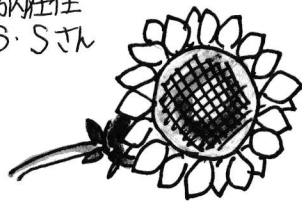
保育園では 早生れのみそっかす

早生れなので保育園ではクラスのみんなより一回り小さかったよしのり君。ある時、椅子を並べての「バスごっこ」遊びで体の大きな運転手役のお友達に「誰だ！うるさいのはおろすぞ」と言われ、「やだやだ、やだ〜」と本気で泣き出してしまいました。

冬の寒い朝、お母さんが汚れ物を洗濯場で洗っていると「かあちゃん、さみい（寒い）からこっち来な。ごはん。」とやさしく声をかけてくれるおかあさん思いの子でした。



市内在住
S・Sさん



保育園のときから「よっちゃん」と呼んでました。そのよっちゃんが市議選の候補にと聞いてびっくりしました。よっちゃんはみんなを仕切るようなポジションじゃなかったし、どちらかと言うとおとなしかったんですよ。でもよっちゃんはスゴイ！10年修行して独立。しかもバイオリンだなんて。「やりたいことはひたひたとやる人なんだ」と思いました。よっちゃん、がんばれ！応援するよ。



第2くみ友人のおおちゃん



保育園では絵をかくことが多いんですが、よっちゃんの絵は繊細な部分まで描かれていたり、動きのある絵でした。今思うとそんな繊細な部分、細かなところにも気付けるよっちゃんだからバイオリンを直すという仕事につながって行ったんだなと感じました。

この力を、今度は市民一人ひとりの要求・願いに応えられる市議員になってほしいと期待しています。

応援しています！！

小・中学校は ソフト・野球に夢中！



小学生になるとソフトボールチーム「中条ボレーズ」のエースとして活躍。朝早くからピッチングの練習をする努力家でもありました。中学ではピッチャーをリードするキャッチャーに転向。野球漬けの日々でした。

ある日、小学校からの帰り道、1匹のカメが歩いていました。友達の1人が「カメに油をかけて火をつけよう。」と言うと、「そんなことはやめろ！と勇気をもって止めました。生き物を愛する正義感の強さも芽生えていました。

高校受験の時は、進路指導の先生も親も別の高校を薦めましたが、クラスのグループで「深商見学」を体験したとき「ビジネス社会」に関心を持ち、歴史ある深谷商業高校の受験を心に決めていました。「深谷商業に行きたい。行く」と親を説得して受験。自分の意思をしっかりと持つ少年に成長していました。



高校では帰宅部 バイオリンと出会い夢も大きく膨らむ

高校入学と同時に野球部からの誘いがありましたが断り、帰宅部を選びます。

やさしさと正義感を持ち合わせたよしのり君は、ある日下校途中で、スーパーのレジ袋を両手に持ち坂道を上るおばあちゃんを見て声をかけます。「思いでしょう？持ちましょうか？」すると後ろから近づいてきた車の窓が開き、男の声が「悪さしちゃだめだぞ！」…「おとなって、あたまから高校生のおれたちをワルだと思っているんだ」と、おとなに不信感を持つこともありました。

卒業後の将来を考え始めたよしのり君の夢は大きく、「バイオリンの本場イタリアでバイオリンの勉強がしたい(〇〇)」と駅前ノバでイタリア語の勉強を始めます。しかし、いろいろ調べていくとイタリアはバイオリンの制作職人を養成するところという事が分かり、イタリア行きを断念。東京での「バイオリンリペアマン（修理職人）」の道を選び、専門学校への入学を決めました。



佳典君は子どもらしいかわいい子で「おばあちゃん子」でした。

風が運んで来たんでしょ、保育園の裏にかき菜がたくさん育っていました。それを採っているといつの間にかよしのり君が寄って来て「かき菜好きなん？」と聞くので、「うん、好きだよ。」という、「そんなに好きなら（うちのかき菜をおばあちゃんに）採らせようか？」といいながら後をついてきました。そのやさしさにとてもうれしかったことを思い出します。

卒園して26年、仲間になったよしのり君。私たちの願いを託して頑張ってくれると思うと誇らしく、うれしさでいっぱいです。

よしのり君ダシに同窓会しようかな(〇〇)

当時の園長
青木尚子さん

